

KCJS29 2018 年春学期 日本語 E クラス

担任 (coordinating instructor) : 中村伊都子

オフィス/電話番号/メール : F203 (扶桑館) /075-251-4996/in2008@columbia.edu

オフィスアワー : 必要に応じて (事前に連絡すること)

副担任 (Sub-instructor) : 西俣美由紀 mf2249@columbia.edu

授業時間 : 月~金 9:30-10:30 & 10:40-11:30

教室 : F213

<KCJS 全体の目標>

The objective of KCJS's Japanese Program is to enhance the student's communicative competence and to enable professional and personal interaction with members of Japanese society in ways that are culturally readily acceptable. In particular, a KCJS student will come to:

1. Understand the intentions of others when Japanese is spoken;
2. Understand the intentions of others when written materials of various genres and media are presented;
3. Control the use of Japanese expressions, both spoken and written, in order to fit the socio-cultural settings and purposes of communication;
4. Expand the modes of communication used to include such genres as formal presentations, negotiations, projects, the organization of events, and their follow-up.

<このコースでの今学期の目標>

- 日本文化の理解を深め、日本語の運用能力を向上させる
 - ① 詳細さ (詳しく説明したり、詳しく描写したりできるようになる)
 - ② 説得力のある考え (裏付けのある意見を述べ、相手に納得してもらえるようになる)
- 多文化理解を深める (日本文化、クラスメートの国の文化を学ぶことで、自国の文化にも光を当てる)

<目標達成のための発想の転換>

- 「教わる」から「学ぶ」へ、「銀行型」から「実践」へ
- 自分をとりまく環境全てが学びの場、いつでもどこでも学習
- 自分をとりまく全ての人が先生
- 間違いは学びのチャンス、間違いからしか学べない

つまり、五感で学ぶ (視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚)

観察から学ぶ

試行錯誤 (trial & error) を通して学ぶ

人から学ぶ (聞く、質問する、真似る)

人と学び合う (知識を共有する)

いつでもどこでも主体的に、積極的な姿勢で学ぶ

いつでもどこでも誰とでも日本語を使う

習ったことを積極的に使う

間違いから学ぶ

常にチャレンジする (難しいと感じることをする、難しいと感じる形です)

予習を通し、何が分からないかを把握した上で授業に来る

復習し、分からなかったところが分かるようになったかどうかを確認する

<目標の達成方法>

- 地域参加型プロジェクト (Community Involvement Project)

- ・ インタビュープロジェクト
- ・ ホストファミリーや友達、会話パートナーへの聞き取り調査
- ・ ゲスト講師による講義
- ・ 多読
- ・ 教師-生徒間の密なフィードバック
- ・ “突きあげ” (自分にチャレンジを課す)
- ・ クラスで決めた日本語の上達のためのルールの遵守(じゆんしゆ)
- ・ (オプション) 会話パートナー

<詳しい学習目標>

1. 日本人のために書かれた様々なジャンルのテキストを精読(せいどく)して、クリティカルに読めるようになる。また、分からない言葉や文法があっても、文脈(ぶんみやく)から意味を推測(すいそく)して理解を深められるようになる。
2. 日本人のために書かれた様々なジャンルのテキストを速読(そくどく) (rapid reading i.e. scanning and skimming)して、必要な情報や要点を取ったりできるようになる。
3. 多読 (extensive reading) を通して、日本語のテキストを楽しく読み、短時間に読める量を増やす。
4. 日本語でのコミュニケーションにおいて、分からないことを質問したり、自分の理解が正しいかどうか確認したり、時には推測(すいそく)によって補(おぎな)いながら、理解を深められるようになる。
5. 詳しく説明したり、描写(びようしゃ)したり、説得力(せつとくりよく)のある意見を述べたりできるようになる。
6. 相手に伝わる文章を書けるようになる。
7. 映像作品(えいざう)や話題のニュースを理解し、それについて話したり、意見を述べたり聞いたりできるようになる。
8. 漢字熟語(じゆくご こうせいようご)の構成要素から、熟語の意味が推測できるようになる。
9. 相手や場面にあわせ、適当な話し方ができるようになる。
10. 読み教材、聞き教材や、『Kanji in Context』から日常語彙(ごい)、抽象語彙(ちゆうしやう)、漢語彙、文法・表現を増やす。
11. 独学の仕方を身につける。

<成績うちわけ>

授業 (30%)	出席・参加 <small>(せつきよくせい)</small> (準備、積極性)	15%
	宿題	15%
小テスト・試験 (50%)	小テスト (漢字、単語)	15%
	試験 1、2、3	35%
プロジェクト (20%)	地域参加型プロジェクト (CIP)	10%
	プロジェクト・期末発表	10%

100 – 94.0 A	93.9 – 90.0 A-	89.9 – 87.0 B+	86.9 – 83.0 B
82.9 – 80.0 B-	79.9 – 77.0 C+	76.9 – 73.0 C	72.9 – 70.0 C-
69.9 – 67.0 D+	66.9 – 63.0 D	62.9 – 60.0 D-	59.9 - F

<小テスト>

1. ほぼ、毎日 9時半から 9時 40分 の間にクラスで行なう。遅刻をしても時間の延長(えんちやう)なし。
2. 漢字テスト：単語テストがない日は、毎日「意味」と「読み&書き」の小テストを受ける。
『Kanji in Context』から赤字(しやくつだい)のものが出題される。

3. 漢字まとめテスト：漢字テストの3、4つ分から出題される。

4. 単語テスト：クラスで読んだ読み物などから出題される。

<決まりごと>

1. 遅刻と欠席について

- ・欠席する時は、担任^{たんにん}に電話かメールで必ず連絡すること。075-251-4996/in2008@columbia.edu
- ・遅刻と欠席は、授業ごとに数える。(例 1日休んだら2回欠席)
- ・欠席した場合、出席点、参加点が0点になる。(ただし、学期末に点数の低い順で6回分の出席点・参加点を落とす。)
- ・1分でも遅れたら、その授業は「遅刻」の扱い^{あつか}になり、出席点・参加点が下がる。
- ・20分以上遅れたら、「欠席」の扱いになり、出席点・参加点が0点になる。
- ・授業を七回以上休んだ場合は、日本語のコーディネーター(西俣先生^{にしまた しまへん})に書面で理由を説明すること。

2. 小テストや試験について

- ・小テストは、ほぼ毎日9時半から9時40分の間にクラスで行なう。遅刻をしても時間の延長^{えんちやう}なし。
- ・休んだ日の小テストは後で受けることはできない。試験は、やむをえない事情^{じじやう}で欠席した場合だけ、後で受けることができる。
- ・私用の旅行は、やむを得ない事情ではないので、試験は受けられない。

3. 宿題

- ・しめきり(つまり、1時間目開始時)までに宿題を出す。遅れた場合はチェックするが、点数はもらえない。
- ・きちんと宿題をしていないことが明らかな場合は、「incomplete」と見なし、点数はもらえない。
- ・重要なポイントで間違いがある場合は、やり直しをしなければならない。試験日までにより直しをしなければ7割しか点数をもらえない。
- ・宿題は、自分一人の力ですること。他の人を見たり、他の人に直してもらったりしてはいけない(ただし、ピア・エディティング^{のぞ}は除く。)

4. その他

- ・他のアカデミックなルールに関しては、以下のページを読むこと。<http://www.college.columbia.edu/ccschonorcode>
- ・教室では食べ物を食べない。